

<東海北陸> 鈴鹿工業高等専門学校

*****断り*****

図や一部文章は当該高専 HP 及び当該高専が作成する資料より引用

鈴鹿工業高等専門学校 HP : <https://www.suzuka-ct.ac.jp/>

鈴鹿高専ポケットガイド 2020:

<https://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2012/03/20200522001.pdf>

*アクセス(図 1 は鈴鹿高専ポケットガイド 2020 より引用)

〒510-0294 三重県鈴鹿市白子町



図 1 アクセスマップ

*特色(一部文章は鈴鹿高専 HP より引用)

- ・昭和 37 年に創設された高等専門学校の第一期校
- ・機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、生物応用化学科、材料工学科の 5 学科と専攻科(総合イノベーション工学専攻) から成っている
- ・鈴鹿市は、全国的にもユニークな産学官連携組織 (SUZUKA 産学官交流会) をもっており、鈴鹿高専はその発足当初から会の発展のために尽力。この会は、単なる産学交流組織ではなく、地域における新事業の創出と産業振興を明確な目的とする連携組織である。これまでの精力的な活動の中から、シャクヤクの葉と花の抗菌活性の発見、健康街づくりビジョンの提案など地域結集型の新事業創出活動を生み出している。

SUZUKA 産学官交流会とは

平成 11 年に発足した三重県鈴鹿市を中心とする産学官連携組織。市内の 3 つの高等教育機関と約 50 の企業が参画し、鈴鹿商工会議所が事務局を担っている。三重県、鈴鹿市からも支援を受けて、各種交流事業、研究会活動、産学技術サロン等を運営し、「人づくり、物づくり、街づくり」をスローガンとして新事業の創出や産業振興活動を行っている。商工会議所が中心となって産学官連携活動を進めている地域は全国的にも珍しく、

中部経済産業局から産学官連携のモデル地区に指定されてもいる。

*教育目標・教育理念(一部文章は鈴鹿高専 HP より引用)

本校の使命

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として我が国の産業の発展を支え、グローバルに活躍する人づくりと、新しい価値の創造により広く地域と社会の発展に貢献する。

教育理念

- 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する
- 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する
- 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる
- 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる

養成すべき人材像

- 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性を持った人材
- 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材
- 課題探究能力と問題解決能力を身に付けた創造性豊かな人材
- コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材

教育方針

学科（準学士課程）

5年一貫の教養教育及び実践的工学教育により、創造性豊かな実践的技術者として将来活躍するための基礎的な知識と技術及び生涯にわたり学習する力を身に付けた人材を育てる。

専攻科課程

- 幅広い基礎技術と高度な専門知識を有し、広い視野から社会の変化に的確に対応できる技術者を育成する。
- 新しい価値を創造する力を備え、研究開発能力、課題探求能力を有し、社会に貢献できる意欲的な技術者を育成する。
- 社会に対する責任を自覚でき、優れた倫理観をもった技術者を育成する。
- 日本語及び英語によるコミュニケーション能力をもった技術者を育成する。

教育目標

学科（準学士課程）

教養教育の目標

豊かな人間性と社会性を涵養し、広い視野からの問題把握と価値判断ができる力を培う。

また、自然科学及び情報処理の知識を習得させるとともに、英語によるコミュニケーション能力を育成する。

専門教育の共通目標

準学士課程の教育を実施し、高い専門知識と豊富な実験技術を養う。

機械工学科の目標

機械工学に関する理論と知識（材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産、機械とシステム等）、実験技術を習得させるとともに、応用・展開力、創造性を養う。

電気電子工学科の目標

電気電子工学に関する理論と知識(電気磁気学、電気・電子回路、エネルギー・電気機器、物性・デバイス、計測制御、情報・通信)並びに全学年にわたって系統的に配置した実験・実習科目により実践的な技術を習得させ、創造性を養う。

電子情報工学科の目標

電子情報工学に関する理論と知識（電気磁気学、電子回路、電子工学、電子制御、ソフトウェア工学、計算機工学、情報通信ネットワーク等）及び実験技術並びにそれらの融合化技術に関する知識を習得させるとともに、創造性を養う。

生物応用化学科の目標

化学に関する理論と知識（無機化学系科目、有機化学系科目、分析化学系科目、生物化学系科目、物理化学系科目等）及び応用化学あるいは生物工学に関するコース別専門知識（工業化学系科目、化学工学系科目、設計・システム系科目、環境工学系科目、細胞工学系科目、遺伝子工学系科目、生体材料工学系科目等）並びに豊富な実験技術を習得させるとともに、創造性を養う。

材料工学科の目標

材料工学に関する理論と知識（材料の物理と化学、材料の構造・設計・物性・機能、製造プロセス等）及び豊富な実験技術を習得させるとともに、それらを応用して材料に関連する諸問題を解決できる創造性を養う。

専攻科（専攻科課程）

総合イノベーション工学専攻の教育目標

より高度で幅広い専門知識や創造力、判断力を身に付け、科学技術の分野でグローバルに活躍できる実践的技術者を育てる。また、研究開発能力、課題探求・問題解決能力、技術者倫理を含む総合的判断力、英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、技術開発の場で新たな価値を創造する力を育てる。

環境・資源コース

地球温暖化や酸性雨に代表される環境問題、自然環境破壊抑制のための環境保全、バイオマス・鉱物・水・生物・海洋等各種天然資源の有効利用、環境調和型資源リサイクルによる循環型社会の構築等を行うために、機械、電気・電子、情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を養成する。

エネルギー・機能創成コース

次世代の新エネルギー開発、その安定供給、輸送や利用における効率化や関連機能材料等に関わる技術開発を行うために、機械、電気・電子、情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を養成する。

ロボットテクノロジーコース

自身の専門分野を軸としてロボットを構成する技術を高度化し、イノベーションの創出や革新的な応用技術を社会に還元するために、機械、電気・電子、情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を養成する。

先端融合テクノロジー連携教育プログラム

本校専攻科と国立大学法人豊橋技術科学大学がそれぞれの強みをもつ教育資源を有効に活用しつつ、教育内容の高度化を図り、実践的・創造的能力を備えた指導的技術者を養成する。

*3つのポリシー(一部文章及び URL は鈴鹿高専 HP より引用)

鈴鹿高専は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として我が国の産業の発展を支え、グローバルに活躍する人づくりと、新しい価値の創造により広く地域と社会の発展に貢献することを使命としている。

人づくりに関する使命を達成するため、建学の精神を踏まえ、

1. 幅広い視野からの価値判断力
2. 健全な技術者精神と豊かな人間性
3. 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力
4. 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力
5. 心身を鍛え、自己を確立し、自ら未来を切り拓く力

を身につけ、地域と社会の持続的発展に貢献し、世界に通用する創造力豊かなエンジニアの育成を目標としている。

アドミッションポリシー

学科

1. 求める入学志願者像

- ・ 中学における学習内容をしっかりと理解している人
- ・ 数学や理科に興味を持ち、科学の発展に夢を持っている人
- ・ 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人
- ・ 他人を思いやり、協調していける人

2. 入学者選抜方針及び選抜の方法

本校では、「世界に羽ばたく創造的エンジニア」の育成を目的とし、その高い可能性を持った学生の選抜を基本としている。

入学者の選抜は、多様な人材を選抜するため、「推薦による選抜」と「学力による選抜」及び「帰国子女特別選抜」を行う。

推薦選抜においては、中学校における成績を評価するとともに、自然科学や科学技術に対する興味、工学を学ぶ意欲、生徒会活動・課外活動・ボランティア活動などの経験を通して育まれた協調性、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力などを、面接結果を含め総合的に評価し、知徳体にバランスのとれた学生を選抜する。

学力選抜においては、実践的・創造的技術者教育に必要な一般科目と専門科目を十分理解できる学生を選抜するため、その基礎となる学力の試験及び調査書の合計点を評価して選抜する。帰国子女特別選抜においては、作文と面接も評価して選抜する。

第4学年編入学

1. 求める入学志願者像

- ・ 科学技術に興味を持ち、その発展に夢を抱く人
- ・ 工学を学ぶ上で基礎となる知識を身につけている人
- ・ 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、継続的に自己学習できる人
- ・ 論理的に物事を考えることができる人
- ・ コミュニケーション能力と協調性を身につけている人

2. 入学者選抜方針

本校では、「世界に羽ばたく創造的エンジニア」の育成を目的とし、その高い可能性を持った学生の選抜を基本としている。

入学者の選抜は、筆記試験及び面接の結果を総合して行う。

筆記試験においては、実践的・創造的技術者教育に必要な科目を十分理解できる学生を選抜するため、基礎となる英語、数学、学科個別科目の試験を行う。学科個別科目については、工業系高校、普通高校を含めた各課程の学生に対応するため、学科別専門科目と物理・化学・生物からの選択制になっている。

面接においては、科学技術や工学を学ぶ意欲、適性を総合的に評価する。

留学生

1. 求める入学志願者像

- ・科学技術に興味を持ち、その発展に夢を抱く人
- ・工学を学ぶ上で基礎となる知識を身につけている人
- ・何事にも積極的に挑戦する意欲があり、継続的に自己学習できる人
- ・論理的に物事を考えることができる人
- ・日本語と日本文化に興味と関心を抱く人

2. 入学者選抜方針

留学生の入学については、日本学生支援機構で実施される日本留学試験（理科（物理・化学・生物）・数学）および日本語能力試験（読解・聴読解・記述）の結果と、面接試験で評価されるコミュニケーション能力や学習意欲の評価結果から推薦を受けた留学生について、科学技術への興味、工学を学ぶ上での基礎知識、何事にも積極的に挑戦する意欲と継続的な自己学習能力、論理的な思考能力を有し、日本語や日本文化に興味と関心を持つ学生であるとして入学を受け入れる。

専攻科

1. 求める志願者像

- ・科学技術の発展に寄与する意欲のある人
- ・自らの向上をめざして継続的に自己学習を行う意欲・適性のある人
- ・論理的に物事を考える適性を持つ人
- ・豊かな想像力を持ち、何事にも積極的に挑戦する意欲・適性のある人
- ・広い視野を持ち、将来、国際社会で活躍する意欲・適性のある人

2. 入学者選抜方針

本校専攻科では、科学技術の分野でグローバルに活躍できる実践的技術者の育成を目的とし、専攻科修了時にこの目的を達成できる高い可能性をもつ学生の選抜を基本としている。

このため、学校長等の推薦による選抜及び社会人特別選抜においては、科学技術の発展や国際社会への貢献に向けて継続的に学習しようとする意欲、論理的思考能力などの適性、専門分野に関する基礎知識などを面接試験により評価し、推薦書（社会人特別選抜の場合は業績調書）及び調査書の内容と併せて総合評価する。

学力選抜においては、グローバルに活躍できる実践的技術者となるために必要な基礎的知識を TOEIC（Test of English for International Communication : TOEIC IP を含む）または TOEFL (Test of English as a Foreign Language) iBT のスコアと数学の筆記試験により評価し、調査書の内容による意欲、適性、人物及び専門基礎知識の評価と併せて総合評価する。

ディプロマポリシー

機械工学科

機械工学科では、鈴鹿高専の教育目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、所定

の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 人文社会の基礎知識と幅広い教養
2. 英語によるコミュニケーションの基礎能力
3. 機械工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識
4. 機械工学の専門としての、材料系、熱・流体系、運動・制御系の知識
5. ものづくりのための、素材、設計・製図、加工・生産、計測の知識
6. 機械工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力
7. 実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力
8. 技術者としての倫理観

電気電子工学科

電気電子工学科では、鈴鹿高専の教育目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 人文社会の基礎知識と幅広い教養
2. 英語によるコミュニケーションの基礎能力
3. 電気電子工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識
4. 電気電子工学の専門としての、電気磁気学、回路系、エネルギー・機器系、物性・デバイス系、計測・制御・情報系および設計・製図の知識
5. 電気電子工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力
6. 実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力
7. 様々な技術を社会に役立てるために必要な高い倫理観

電子情報工学科

電子情報工学科では、鈴鹿高専の教育目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 人文社会の基礎知識と幅広い教養
2. 英語によるコミュニケーションの基礎能力
3. 電子情報工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識
4. 電子情報工学の専門としての、電気電子系、情報通信系の知識
5. ものづくりのための、ハードウェア、ソフトウェア及び両者の融合技術の知識
6. 電子情報工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力

7. 実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力
8. 技術者としての倫理観

生物応用化学科

生物応用化学科では、鈴鹿高専の教育目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 人文社会の基礎知識と幅広い教養
2. 英語によるコミュニケーションの基礎能力
3. 応用化学および生物工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識
4. 化学に関する理論と知識（無機化学系、有機化学系、分析化学系、生物化学系、物理化学系）、ならびに実験技術
5. 応用化学・生物工学に関する共通・コース別専門知識（工業化学系、化学工学系、設計・システム系、環境工学系、細胞工学系、遺伝子工学系、生体材料工学系）、ならびに実験技術
6. 応用化学あるいは生物工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力
7. 実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力
8. 技術者としての倫理観

材料工学科

材料工学科では、鈴鹿高専の教育目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 人文社会の基礎知識と幅広い教養
2. 英語によるコミュニケーションの基礎能力
3. 材料工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識
4. 材料工学の専門としての、金属材料、無機材料、有機材料の知識
5. 材料の理解に必要な材料物性と物理化学の知識
6. 材料の理解に必要な分析・評価の知識
7. ものづくりのための、設計・製図、加工の知識
8. 実験や実習を通じて、材料の合成・評価の技術、および他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力
9. 材料工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力
10. 技術者としての倫理観と公正な態度

総合イノベーション工学専攻

総合イノベーション工学専攻では、専攻科の教育方針および総合イノベーション工学専攻の教育目標のもと、所定の単位を修得し、以下の知識および能力を身につけた学生に対して修了を認定する。

1. <視野>自己と世界の間係を理解し地球規模で物事を眺めることができる。
2. <技術者倫理>生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。
3. <意欲>習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。
4. <基礎>数学，自然科学および情報技術の知識を習得し，それを活用できる。
5. <専門>基礎工学に加え，主となる専門分野において環境・資源，エネルギー・機能創成，ロボットテクノロジーの各コースに関する専門工学の知識を習得し，それを活用できる。
6. <展開>習得した知識をもとに創造性を発揮し，他者と協働しながら仕事を計画的に進めまとめることができる。
7. <発表>自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。
8. <英語>英語による基本的なコミュニケーションができる。

カリキュラムポリシー

機械工学科

機械工学科では、ディプロマポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラムポリシーを定め、[教育課程系統図](#)に示している。

機械工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、創造性豊かな技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観を身につけた人材の育成を行う。

一般科目として人文社会（国語，歴史，地理，政治・経済），英語，数学，自然科学（物理，化学，地球生命科学），情報処理の基礎教育を行います。また機械の設計や開発を行う技術者となるために必要な基盤となる材料系（材料力学，材料学），熱・流体系（熱力学，水力学），運動・制御系（機械力学，制御工学）といった機械工学の専門知識を身につけるカリキュラムを構築している。特にものづくりのための，設計・製図（機械設計製図，機械設計法），加工（機械工作実習，機械工作法）の知識と技術を活用する課題解決型科目（総合実習，創造工学）を体系的に配置することで，次世代を担う技術者に必要な能力を身につけられるようにする。

上記カリキュラムを構成している各科目は，それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が60点以上となることによって単位を認定する。

電気電子工学科

電気電子工学科では、ディプロマポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラムポリシーを定め、[教育課程系統図](#)に示している。

電気電子工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、創造性豊かな技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観を身につけた人材の育成を行います。

一般科目として人文社会（国語、歴史、地理、政治・経済）、英語、数学、自然科学（物理、化学、地球生命科学）、情報処理の基礎教育を行っている。

また、電気電子工学分野の技術者となるために必要な電気磁気学、回路系（電気回路、電子回路）、エネルギー・機器系（電気機器、電力システム）、物性・デバイス系（電子物性基礎、半導体工学）、計測・制御・情報系（電気電子計測・電子制御基礎）、設計・製図（電気電子製図）などの専門知識が習得できるようにカリキュラムを構築している。そして、電気電子工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用する課題解決型科目（創造工学、卒業研究）を体系的に配置することで、次世代を担う技術者に必要な能力を身につけられるようにする。

上記カリキュラムを構成している各科目は、それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が60点以上となることによって単位を認定する。

電子情報工学科

電子情報工学科では、ディプロマポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラムポリシーを定め、[教育課程系統図](#)に示している。

電子情報工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、創造性豊かな技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観を身につけた人材の育成を行う。

一般科目として人文社会（国語、歴史、地理、政治・経済）、英語、数学、自然科学（物理、化学、地球生命科学）、情報処理の基礎教育を行う。またハードウェアやソフトウェアの設計開発を行う技術者となるために必要な基盤となる電気電子系、情報通信系といった電子情報工学の専門知識を身につけるカリキュラムを構築している。特にものづくりのための、ハードウェア、ソフトウェア及び両者の融合技術を活用する実験科目、課題解決型科目を体系的に配置することで、次世代を担う技術者に必要な能力を身につけられるようにしている。

上記カリキュラムを構成している各科目は、それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が60点以上となることによって単位を認定する。

生物応用化学科

生物応用化学科では、ディプロマポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラムポリシーを定め、[教育課程系統図](#)に示している。

応用化学・生物工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、創造性豊かな技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観を身につけた人材の育成を行う。

一般科目群（基本科目）として、人文社会（国語、歴史、地理、倫理・社会、政治・経済）、英語、数学、自然科学（物理、化学、地球生命科学）、情報技術（情報処理）、技術者倫理（技術者倫理入門）による教養教育を行う。また、化学に関する基礎専門科目として、無機化学系（無機化学）、有機化学系（有機化学、高分子化学）、分析化学系（分析化学、機器分析化学、環境分析化学）、生物化学系（生物化学、基礎細胞生物学、微生物学）、物理化学系（物理化学、界面化学）、および実験・実習（生物応用化学実験、情報処理応用）などの専門科目群（基本科目）を用意している。さらに、応用化学・生物工学に関する共通・コース別専門科目として、工業化学系（精密合成化学、無機化学、有機工業化学、無機工業化学、電気化学、機能材料工学）、化学工学系（化学工学、反応工学、生物化学工学）、設計・システム系（化学設計製図）、環境工学系（環境工学）、細胞工学系（細胞工学、タンパク質化学）、遺伝子工学系（分子生物学、遺伝子工学）、生体材料工学系（生体材料工学）、実験・実習（応用化学・生物化学コース別実験）、課題解決型科目（創造工学、卒業研究）などの高い専門知識・技術を身につける専門科目群（基本科目）を体系的に配置することで、素材・生産・環境を総合的に捉えられる創造性豊かな実践技術者に必要な能力を身につけられるようにする。

上記カリキュラムを構成している各科目は、それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が60点以上となることによって単位を認定する。

材料工学科

材料工学科では、ディプロマポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラムポリシーを定め、[教育課程系統図](#)に示している。

材料工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、創造性豊かな技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観を身につけた人材の育成を行う。

一般科目として人文社会（国語、政治・経済）、英語、数学、自然科学（物理、化学）、情報処理の基礎教育を行っている。

材料の設計や開発を行う技術者となるために必要な基盤となる金属材料系（金属材料学、鉄鋼材料学）、無機材料系（無機化学、分析化学）、有機材料系（有機化学、高分子化学）、

材料物性系（材料組織学，結晶解析学），物理化学系（物理化学，量子力学）といった材料工学の専門知識を身につけるカリキュラムを構築している。また，分析・評価系（材料評価学，材料力学）およびものづくりのための設計・製図，加工系（設計製図，機械工作法），ならびに習得した知識と技術を活用する課題解決型科目（ものづくり実習，創造工学，卒業研究）を体系的に配置することで，次世代を担う技術者に必要な能力，倫理観と公正な態度を身につけられるようにする。

上記カリキュラムを構成している各科目は，それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が 60 点以上となることによって単位を認定する。

総合イノベーション工学専攻

総合イノベーション工学専攻では，ディプロマポリシーに掲げた能力を育成するために，以下の方針でカリキュラムを構成し，教育課程系統図に示している。

1. <視野>に関連した科目（言語表現学特論，国際関係論等）を配置する。
2. <技術者倫理>に関連した科目（技術者倫理）を配置する。
3. <意欲>に関連した科目（特別研究Ⅰ，特別研究Ⅱ）を配置する。
4. <基礎>に関連した科目（代数学特論，応用物理学等）を配置する。
5. <専門>に関連した科目として，環境・資源コースでは，（海洋環境学，資源工学等）を配置する。

エネルギー・機能創成コースでは，（次世代エネルギー工学，材料強度工学等）を配置する。

ロボットテクノロジーコースでは，（実践メカトロニクス，制御機器工学等）を配置する。

6. <展開>に関連した科目（総合イノベーション工学実験，特別研究Ⅰ，Ⅱ）を配置する。
7. <発表>に関連した科目（特別研究Ⅰ，Ⅱ等）を配置する。
8. <英語>に関連した科目（技術英語Ⅰ，Ⅱ，英語総合Ⅰ，Ⅱ等）を配置する。

上記カリキュラムを構成している各科目は，それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が 60 点以上となることによって単位を認定する。

*入試形態(URL は鈴鹿高専 HP より引用)

本科

[令和 3 年度学科学生募集要項](#)

編入学

令和 3 年度は実施なし

[平成 31 年度編入学生募集要項](#)

専攻科

[令和3年度専攻科学生募集要項](#)

*試験状況及び偏差値や倍率([URLは鈴鹿高専HPより引用](#))

偏差値 66

年度別試験実施状況

令和2年度

[学科入学試験 実施状況](#)

編入学実施なし

[専攻科学生選拔出願状況](#)

平成31年度

[学科入学試験 実施状況](#)

[編入学性選拔出願状況](#)

[専攻科学生選拔出願状況](#)

平成30年度

[学科入学試験 実施状況](#)

[編入学性選拔出願状況](#)

[専攻科学生選拔出願状況](#)

平成29年度

[学科入学試験 実施状況](#)

[編入学性選拔出願状況](#)

[専攻科学生選拔出願状況](#)

平成28年度

[学科入学試験 実施状況](#)

[編入学性選拔出願状況](#)

[専攻科学生選拔出願状況](#)

平成27年度

[学科入学試験 実施状況](#)

[編入学性選拔出願状況](#)

[専攻科学生選拔出願状況](#)

平成 26 年度

[学科入学試験 実施状況](#)

編入学実施無し

[専攻科学生選拔出願状況](#)

平成 25 年度

[学科入学試験 実施状況](#)

編入学実施無し

[専攻科学生選拔出願状況](#)

平成 24 年度

[学科入学試験 実施状況](#)

[編入学性選拔出願状況](#)

[専攻科学生選拔出願状況](#)

平成 23 年度

[学科入学試験 実施状況](#)

[編入学性選拔出願状況](#)

[専攻科学生選拔出願状況](#)

* 卒業後の進路状況(URL は鈴鹿高専 HP より引用)

就職状況

[最近の学科卒業生の就職内定企業一覧](#)

[最近の専攻科修了生の就職内定企業一覧](#)

進学状況 (進学者のおよそ 4 割が推薦入学)

[最近の学科卒業生の大学別編入学合格状況](#)

[最近の専攻科修了生の大学院合格状況](#)